

生物資源分野

研究領域

「生物資源の持続可能な生産と利用に資する研究」

採択年度	2022年	研究期間	5年間
研究課題名	バナナ萎凋病の診断・警戒システムと発病制御戦略の構築と実装	貢献する主なSDGs	  
研究代表機関	東京農工大学 大学院農学研究院		
相手国	ペルー共和国	主要相手国研究機関	ラ・モリーナ国立農業大学
研究課題の概要			
<p>本研究は、有機バナナ産地であるペルー熱帯雨林（セルバ）を対象地域とし、バナナに壊滅的被害を及ぼす萎凋病（いちようびょう、あるいはパナマ病とも呼ばれる）への対策として診断・警戒システムの開発、抵抗性系統、健全苗、生物農薬などを組み合わせて低環境負荷型の「萎凋病総合制御パッケージ」を構築・実装する。これにより、安定なバナナ生産が担保され、セルバ小規模農民の生活水準向上に寄与することを目的とする。そのため、以下5項目の基礎・応用研究・実装を行う。（1）画像解析およびリアルタイムPCRなどによるバナナ萎凋病の診断・警戒システムの構築と実用化、（2）突然変異誘発による萎凋病抵抗性／耐病性バナナ系統の選抜、（3）健全苗生産システムの構築と実装、（4）病害発病抑止土壌を構成する有効な微生物叢（微生物エコシステム）の解明、（5）微生物エコシステムなどを活用した環境への影響が少ない新奇生物的制御法（生物農薬）の開発。加えて、専門家の養成および農民の啓発を推進し、社会実装を目指す。</p>			